

極東地域国際交流の試み

苦小牧 星田 淳

「極東ソ連、例えばウラジオのエスペラント会と文通がおりなら、Z祭に向けてメッセージをとっていただくわけにはいきませんか……」と三沢正博会長からハガキを受取ったのは昨年11月17日、はて今から…？ と心もとなかったが、ともかく、すぐウラジオストックとペトロパブロフスク・カムチャツキーにZ祭のメッセージ交換を提案する手紙を出す。もう札幌のザメンホフ祭の日(12月12日)は迫っており、向うへ着いてすぐ返事が出されたとしても、片道10日以内に行かねば間に合わない。ソ連国内の郵便事情ではまず無理と感じたが、案の定当日までは返事がなかった。

正月に一通、カムチャッカから(別掲)、おくれてウラジオストックの Sergej I. Anikejev 氏から「ザメンホフ祭の時だけにしないで、姉妹グループ(gemelaj grupoj)としてずっと友好関係を結ぼう」と書いて来た。

ところで、ちょうど11月頃、もう一ヶ所メッセージ交換を申し込んであった grupo がある。極東も極東、アジア大陸最東端に近く、アメリカ、アジア両大陸をへだてるベーリング海峡の西 400km チュコト半島の根元、北極圏のわずかに南にある Egvekinot にある Ĉukotva Esp-ista Ligo だ。カムチャッカの grupo "Orienta Avangardo" の位置は東経158度、ところが Ĉukotva Ligo ののは東経180度を越えて西半球に入り、西経179度にある。今知る限り、ユーラシア大陸最東端の

エスペラントグループだろう。かつて盲目の詩人 V. Frošenko が1929年夏～秋の間居たのもこの地方である。その頃のことは作品集 "La tundra ĝemas" にある。「敬愛する Erosenko の名を読んで嬉しい。もっと文通を深めよう」とのたよりが ligo の代表者など二人からあった。

5月9日付のウラジオストックの [Esp.- Klubo "Pacifiko" から] のたより(別掲)が昨年来のよびかけに対する最新の反応だが、これは S-ano Sergej I. Anikejev からまわされた手紙に対しての Klubo としての返事で、「Samideano Misaŭa の提案に心から賛成」だから、まずグループ文通を始めようと、5人の名を書いて来た。24～33歳の若い人たち。

こちらの呼びかけに対する具体的な反応である今度はこちらが応ずる番だ。短い文でも、集団作文の返事でもよい。ともかく応えよう。以前からの姉妹関係の grupoj, 瀋陽、Portlando とも恒常的な連繫を切らさないで行きたい。Esp-isto とは? 国際語エスペラントを使う人をいう、と1905年第1回世界大会で宣言されている。当り前じゃないか、云われそうだが、それを実行するのがわれわれの基本活動。助け合って Esp. の実用を、世界の友との交流を広げて行きましょう。

* * * * *

小樽で会った S-ano Sergej、大阪での船火事では無事脱出、もう帰宅したはずです。

第1面の「極東地域国際交流の試み」で紹介された“Pacifiko”からの手紙、“Orienta Avangardo”からのメッセージ(本誌n-ro22. から再録)、Sergej I. Anikejev 氏の星田氏あて私信(部分)を掲載します。文通希望者はただちにに応じてください。(編集部)

SU-690039, Vladivostok-39
av.100 Let Vladivostoku 103

Esperanto Klubo,
"Pacifiko"

la nuan de majo 1988j

Kara samideano,

Ni konfirmas ricevon Via letero (87,11,17), kaj mi finfine, post tiom granda prokrasto respondas en nomo de Vladivostokaj espistoj.

Bedaŭrinde nia mesaĝo por la memortago de Zamenhof ne okazis.

Ni tutanime kaj elkore apogas proponon de samideano Misawa pri tio ke ni, najbaroj, rilatu pli intense skribe unuj kun la aliaj. Bedaŭrinde, en rilato de'l vizitoj ni estas stretataj.

Por unua paŝo, mi sendas al Vi kelkajn nomojn de Vladivostokaj espistoj. Eble iuj el Vi volonte korespondos persone.

Pri nia klubo nun: Nenio eksterordinara. Ni simple legas-parolas-korespondas, ĉio venas laŭ simila vojo kiel ĉe aliaj centoj E-klubo. Per la nombro de espistoj ni ne povas fanfaroni. Ni malmultas. Ĝi ial ne kreskas, malgraŭ tio, ke ofte okazas Esperanto kursoj por komencantoj. Kiel solvi tiun ĉi problemon, neniu scias.

Granda baro estas tio ke ni ne povas vaste reklami la lingvon.

En nia regiono oni komencis grandan kampanjon pri japanlingvo. Ĉe universitato oni organizis kursojn por ĉiu volontulo, sen linio de aĝo. Ĉe televido oni instruas ĝin por tiuj kiuj ne povas frekventi universitajn kursojn. Ĉe loka gazeto aperas tekstoj de l'televidprogramoj.

Ankaŭ ĉe radio ĉiusabate estas leciono. Verŝajne tiu ekinteresiĝo pri japanlingvo estas ligita kun kresko de aŭtoritato de via lando, kaj de japana teknika literaturo.

Mi respondas al Via letero, ĉar kamarado Anikejev transdonis ĝin al nia klubo. Ni tre volonte kun Vi komunikiĝis kiel proksimaj najbaroj.

Nia klubo adreso: SU-690039, Vladivostoku-103, E. Klubo "Pacifiko".

Volas korespondi:

- Valerij Voronin 33j. interesiĝas pri viv- kaj pensmanieroj de eksterlandanoj.
- Andrej Julin 24j, inĝeniero. interesiĝas pri Esperanto, filozofio.
- Turij Lebenzon 31j. pri esperanto.
- Niva Kojusok 27j. pri vivo entute.
- Griŝa Purgin pri literaturo, tradukarto.

Kun granda estimo,
Andrej Julin

Vladivostok, 1987.12.16

Kara Amiko Hoshida!

Al mi tre plaĉas via ideo (tiu de s-ro Misaŭa) kontakti kiel najbaroj. Jes, mi konsentas kaj plenkore akceptas tion. Sed tempo jam pasis kaj nun estas jam la 16a de dec. Mi ja informis al vi, ke oni intencas iom post iom malfermi la urbon por eksterlandaj vizitontoj. Eble tiamaniere niaj du grupoj estonte sukcesos ligi amikajn nodojn per Esperanto. Kaj poste viziti unu la alian.

Per ĉi letero mi donas al vi nian konsenton. Pliajn detalojn ni devas pripensi en nia klubo. Tial mi poste informos al vi. Laŭ mi interŝanĝi nur mesaĝojn estas teda kaj enua afero. Nepros elpensi ion pli interesan, okazigi amikvesperojn porokazajn, kiuj diferencus de ordinaraj similaj vesperoj.-----

Jen por hodiaŭ mi finas salutante vin plej amike,
Sergej

Karaj japanaj gesamideanoj, geesperantistoj, de nia najbara insulo Hokkajdo!

Sinceran saluton okaze de la memortago de Ludoviko Zamenhof en la 101-a jaro de Esperanto! Plimultiĝon al esperantistaro, sukcesegojn al Esperanto-movado, al nia agado en niaj landoj per Esperanto por interkompreno, paco, amikeco! Tion volis Ludoviko Zamenhof kaj ni! Sukcesojn al vi en ĉio en la Nova Jaro!

Membroj de Esperanto-Klubo

"Orienta Avangardo"

(urbo Petropavlovsk-Kamĉatskij, Sovetunio)
dum Zamenhof-Festo, la 20-an de decembro 1987.

Andris Natinj

Reprezentante la Klubon

第52回北海道エスペラント大会

標記の大会を下記により開催するので多数の参加を期待する。

第52回北海道エスペラント大会開催要領

- | | |
|---------|--|
| 1. 開催日時 | 88年8月21日(日) 午前9時~10時 |
| 2. 開催場所 | 札幌市北区北6条西7丁目 北海道自治労会館 |
| 3. 参加費 | 無料 (但し、HELの会費を徴収する) |
| 4. その他 | ①本年は、第51回大会終了後札幌エスペラント会が第75回日本エスペラント大会の招致を決定し、実行団体になったため、HELの大会の1ヶ月繰り上げ開催を役員会で決定した。
②日本大会の開催中であるから、議案は予算、決算、役員人事等限られたものになる予定。(北海道エスペラント連盟事務局) |

第75回日本エスペラント大会情報
La 75-a Kongreso de Japanaj Esperantistoj
Sapporo, 1988-08-20/21

ひらこう新世紀みどりの大地に！

第75回日本エスペラント大会の準備は着実にすすんでいる。5月末に、参加申し込みが100名を越え、119名(うち不在参加39名)になった。日本大会にふさわしく全国から申し込みがきているが、「大会の成否を決するともいわれる大会参加者の予測がつかず、現時点では、悲観的なほど人数が少ないため、各地区E会の組織を通じて、出来るかぎり多数参加」をよびかける文書が組織委員会と札幌E会の連名で各地方E会に送られた。

札幌国際交流プラザも後援

北海道ユネスコ連絡協議会について、あらたに札幌国際交流プラザ(札幌E会は団体会員)が後援団体になった。

札幌市が大会に助成金

4月27日付けで札幌市の国際交流推進助成金(30万円)の交付が決定した。

分科会、サロン要項作製中

分科会開催要項、大会サロン運営要項は現在作製中で、請求ありしだい送付されることになっている。

オーケストラと折衝中

北海道教育大学札幌分校の弦楽オーケストラと開会式出演を依頼して、曲目、編成など細部にわたって交渉をすすめている。実現すれば開会式に花を添えるものとなる。

大会後観光は中止、Ekskurso実施へ

札幌E会青年部主催の洞爺湖への1泊大会後観光は中止になった。そのかわり「お手軽な」支笏湖温泉1泊のEkskurso(21日/22日)が企画された。料金11000円(追加料理、昼食、遊覧船などの料金は含まず)は29000円だった大会後観光よりグッと安くて、泣かせる。主催は札幌E会青年部、協力は『エスペラントの世界』。(馬場)

第75回日本E大会

8月21日(土)/22日(日) 札幌市
参加費：★一般(6/30まで)6000円、(7/01以降)7000円 ★同伴家族(記念品なし)2000円
★学生・身障者3000円 ★中高生2000円
★不在参加3000円。

振替：小樽 2-35903 第75回日本E大会
連絡先：〒060 札幌市北区北7条西6丁目
北海道クリスチャン・センター気付
第75回日本E大会組織委員会

大会後は支笏湖まで！

POSTKONGRESOにかわるお手軽なEKSKURSO、SES青年部主催、「Eの世界」が協力の
EKSKURSO AL LAGO SIKOTU

8月21日(日)日本大会終了後すぐ小型バスで支笏湖温泉へ、支笏湖観光ホテルで名物ヒメマス料理に舌鼓。翌日は北海道の大自然を堪能して料金11000円+α。

☆問い合わせは〒068 岩見沢市1条東6丁目
法然寺 渡辺晋道へ Tel.0126-22-3091

札幌E会の春季入門講座

札幌 宮岸 忠孝

札幌E会は入門講座を年2回(春、秋)開講して、Eの普及と会員の増加をはかる活動を続けているが、今年も5月14日から春季入門講座を始めた。受講者の募集は今回も新聞各紙の「催しもの」欄を使ったが、反応はよく11名から申し込みがあった。また今回あらたにE通信講座も開設したところ、7名の受講者があった。テキストはこれまでと同じ“La Teksto Unua”で、4ヵ月で修了する。講師はひき続き私がつとめている。

申し込み11名のうち、受講しているのは21歳から60歳までの8人(うち女性6人)、20代が5人という構成なので、若々しい雰囲気講座になった。今季の入門講座では教材として『エスペラント小辞典』も採用して、それぞれが持つようによようにした。Eの力をつけるには、やはり基本的な辞書を最初から身近に置くことが大切と考えたからである。

これまでの入門講座では、受講修了後の「行き先」についてずいぶん苦慮した。札幌E会にはいくつかの“ロンド”(各講座からの継続グループ)があって、独自に会費を徴収して部屋を借り、講師の交通費などを負担してきた。秋以降は、入門に続く初級講座、将来は中級講座を開講するなど、札幌E会の講習会の持ち方も検討しなければならない時期にきている。

今季の入門講座も毎週土曜日、午後2時から4時まで北区のクリスチャン・センター内ホレンコ事務所(北海道マスコミ伝道センター)が教室である。並行するように土曜日午後、同じ建物の中でRondo pupiloj(北島瞳講師)、Rondo Aprilo(小林貴美子講師)、木村喜壬治Rondoの3例会がひらかれている。またホレンコ事務所は日本

大会の準備作業の場所にも使われているので、土曜日にクリスチャン・センターを訪れる会員は、多い時には30人近くにもなる。

*宮岸忠孝氏はHEL事務局長で札幌E会の講習会担当者。ホレンコ事務所の事務長としてさまざまな便宜をはかってもらっています。(編集部)

岩見沢の中学校に Eクラブ誕生

由仁の新田為男さんから岩見沢市立清園中学校の林喜久次教諭が同校の必須クラブのひとつとしてエスペラント・クラブを発足させた、との連絡が寄せられた。

さっそく同校に林さんを訪ねた渡辺晋道さんによると、部員は19名も集まって、林さんも「私も意外に思っている。大体400名ぐらい生徒のいる学校でないとエスペラントをクラブにするほど人数が集まらないものだから」といっている。前任校でもエスペラント・クラブをつくったが、なかなか生徒が集まらなかったともいう。

学習は6月11日からで、“La Teksto Unua”を週1回、正味5ヵ月で第4課までをメドに指導する。林さんのこれまでの経験では「中学生が英語を学ぶのと同時にエスペラントを学ぶと英語が伸びる。自信がつくのかもしれない」とのことである。

林さんは1955年からのE-istoで、そのころは北海道大会にもよく参加していたとのこと。第2世紀を担うE-istojの養成を期待する。(編)

全国合宿に4人参加

5月3～5日に開催された第21回E全国合宿(静岡県・伊豆長岡)に札幌から宮井康夫、宮井テイ子、馬場恵美子、カワハラ・カズヤの4人が

参加した。全国合宿に北海道から4人も参加するのはひさしぶり(はじめて?)のことである。参加者には札幌E会から参加費補助もあった。

今年は札幌で日本大会開催ということもあって、馬場が合宿の開会宣言をしたり、札幌E会を代表して日本大会参加をよびかけた。合宿期間中にも大会参加の申し込みがあった。また、日本大会常置委員会(KKK)との打ち合わせの席も設けられ、大会準備の細部について協議した。

この合宿には宮井さんの子息で川崎市在住の宮井朗さんも現地で合流した。宮井朗さんはコンピューター・プログラマーで、以前Eの講習を受けたことがある。(編)

苫小牧民報に 「ナナカマド」記事連載

苫小牧 星田 淳

昨年ワルシャワで世界大会の際、健康食品として売られているナナカマドの実を見たことは、昨年9月26日、今年3月12日の苫小牧民報の記事になった。

ところが3月の取材の時、記者がワルシャワ以来の話を聞きながら、「あなたの手で文をまとめてくれれば、連載したい」というので、それではと少しづつ文をまとめて編集部に出した。適当に写真など入れることになり、ワルシャワでの写真、外国からの手紙等も使い、5月3日から11日にかけて7回にわたって連載された。ほんとうは8回のもりだったが、最後の2回は資料説明だったので写真を入れずにひとつにまとめられてしまったらしい。

ところでこのナナカマド。Esp.では? Sorpoとあるが、PV(1953)では arbo の意味、PIV(1970)では frukto の意味に変わっているが、ど

ちらも食用になることを述べている。La Mevo (O.R.E. = Ornitologia Rondo Esperantista エスペランティスト野鳥の会機関誌)では野鳥の餌として大きな意味があると書いていた。

Anikejev氏を歓迎

VladivostokoのS. I. Anikejev氏(UEA-delegito)がソ連青年観光団の通訳として来日した。同観光団はプリアムーリエ号に乗船して、5月8日、最初の寄港地・小樽に到着した。

苫小牧の星田淳、星田文子、星田真理、梅木孝昭、札幌の木村喜任治、児玉広夫、カワハラ・カズヤが同日、プリアムーリエ号に Anikejev 氏を訪問して懇談する機会をもった。通訳として多忙だったので短時間であったが、ウラジヴォストクのクラブのこと、彼の家庭のことなどが話題になった。

プリアムーリエ号は3週間の日程で日本各地をまわるようになっていたが、5月18日未明、大阪港で火災を起こしたのは周知のことだが、同氏は無事だったとのこと。(編)

EPĈ 4月号に 三沢会長と北畠さんが

EL POPOLA ĈINIO(中国発行の全文E月刊誌)4月号に祝明義(中華全国E協会事務局次長)が昨年秋の日本のE-isto] 訪中についてレポートしている。この訪問団の一員、北畠瞳さんには本誌1月号に「日中エスペランティスト交流の旅参加記」と題して詳細な日誌を寄せてもらった。

その日誌で祝氏が夫人の緊急入院を隠して訪問団に同行していたというエピソードを記憶している読者も多いだろう。

EPĈ 4月号の記事には3枚の写真が載ってい

て、三沢正博HEL会長と北畠さんが元気な顔を見せている。そのうちの1枚は祝氏と北畠さんならんでいるもので、“La aŭtoro kaj nova EPĈ-peranto s-ino Kitabatake Hitomi”という紹介の短文つき。本文でも“S-ino Kitabatake Hitomi volonte fariĝis en 1987 peranto de EPĈ, kaj dediĉos grandan energion al tiu laboro”と紹介されている。(編)

反核署名が350人から 函館 岩井 正久

4月にブルガリアの文通相手から核兵器廃絶の署名“ヒロシマ・ナガサキからのアピール”350人が送り返されてきました。こちらからは100人分の署名用紙しか送らなかったのに、むこうで苦労して用紙のコピーをとって署名を集めたらしい。文通者の息子(16歳)が中学校で友人によびかけて集めた、と添えられていました。Eは平和と反核のために使われています。これからも核兵器の廃絶をもとめるこの署名を世界中によびかけていこうと思っています。(編集部への電話連絡)

EL POPOLA ĈINIO を読もう

中国の市民生活から中国と世界のE運動まで話題満載の全文E雑誌。購読者には毎月中国から直送されます。

購読料 1年分 3000円
2年分 5400円
3年分 7500円

申し込み先

振替 小樽 1-34034 北畠 瞳
(住所・氏名は漢字とローマ字で)

三沢会長瀋陽へ

三沢正博連盟会長(札幌E会)が6月12日から17日間の日程で中国遼寧省瀋陽(シェンヤン)市を訪問する。

札幌E会は、シェンヤンE会とさらに交流をすすめる、来年をめぐりにE-istoを招待して、札幌で両会の姉妹会締結まではこぶ方向の可能性を検討している。

両E会の交流の発端と経過は木村喜壬治氏の別稿を参照されたい。

瀋陽とのエス語

交流のはじめは

札幌 木村喜壬治

中国ではいまの体制になってからエス語を自由に学べるようになったので、私はEPĈの編集局へ手紙を出した。「瀋陽は札幌の姉妹都市である。交流を深めたいので、瀋陽の samideanoを紹介してほしい」と。

返事がないので、もう一度手紙を送った。そうしたら2年ほど経ってから趙承華氏の紹介があったので、札幌エスペラント会会長名で交流の申入れを行なった。1983年1月のことである。以来、私的にはあるが、libro や sonbendo の交換など熱烈な文通交流が行なわれている。

1986年、71回UK(北京)の帰途、瀋陽を訪問した三沢正博HEL会長以下4名が「札幌世界語者熱烈歓迎」の大幔幕のもと、100名余の大歓待を受けたのも記憶に新しい。趙承華氏は現在、瀋陽世界語協会の会長でもある。中国ではエスペラントを世界語と表現する。

札幌エスペラント会に青年部発足

札幌E会・渡辺 晋道

札幌エスペラント会は、今、8月に当地で開催される第75回日本エスペラント大会にむけて、吉原正八郎会長以下全員が一丸となって準備に追われる毎日です。

皆、自分の役割分担の枠を越えて積極的に仕事を進めています。まだ準備段階ですから、こなした仕事の量だけ事が運ぶと言うわけではありません。水路は掘っているものの、まだ水は流れていないのですから。一区間掘る度に、「これからが大変だ」と溜め息を吐くのです。

そんな中、青年部をつくらうとの声が上がりました。「こんなときに青年部をつくってどうするんだらう」、「青年部は何をするんだらう」、そんなふうにした方もいるかもしれません。

その問いには、こう答えましょう。「そのような、ちっぽけな思案を巡らすことのないような環境をつくるのです。見るまに跳べ」と。

『礼記』に「名を呼べば、唯して諾せず」という言葉があります。唯は即座の「ハイ」で、諾は少し間を置いての「ハイ」です。青年部への入部案内を電話でしました。みなさん快くすぐにOKをくださいました。唯です。機関誌“Mateno en Sapporo”への原稿をお願いしました。「文章はにがだからイヤだわ」と、みなさん、はにかみます。でも、返事は“速達”で届きました。これも唯です。

時と機に恵まれて、青年部は誕生することができました。

青年部のさしあたっての方針は次の通りです。「青年層を中心として、多くの人々とエスペラントで親しもう」。随分簡単な方針だと思われるで

しょうか。エスペラントの普及を考えると、比較対照として“YMCAの英会話サークル”が思い浮かびます。丸い卵も、切り用で四角。これは反対。四角い豆腐も………でしょうか。

“Mateno en Sapporo”の編集方針は、読んでいただいた通り「堅苦しくなく、エスペラントを学ぶ人達の素顔が感じられるように」としていきます。

以下に、去る4月30日に行われた第1回青年部総会で議決された内容を報告します。

①当面、次の活動を行なう。

1. 勉強会を開き、エスペラントの学力向上を計る。
2. 全道、全国の青年E-isto と連絡をとりあう。
3. 今年の日本E大会の情報を機関誌(隔月刊)に載せ、購読者に提供する。

②青年部委員として次の5名を選出した。

佐藤奈美子、佐藤布美子、佐藤みはる、馬場恵美子、渡辺晋道。

③委員の互選により次の二役を選出した。

部長 渡辺晋道、書記長 馬場恵美子。

札幌E会青年部機関誌 Mateno en Sapporo
の購読申し込み、問い合わせは、

〒068 岩見沢市1条東6丁目法然寺

渡辺晋道まで Tel.0126-22-3091

郵便振替：旭川 4-11065「マテーノ」

年間購読料： 1000円

私とエスペラント

Karloの筆写とMartaのタイプ

札幌 高橋 要一

“エスペラント歴は?”と問われれば、“馬に喰わせるほど”ということになるのだが、今までに読んだ本となると、はて、何冊位になるだろうか。

むかしは初等講習が終われば、次はKarlo とくるのがお定まりのコースであった。今でも手許に残っている懐かしいテキスト Karlo、何とこれが自分の手書きのものである。どうしてだか記憶がないが、“5 la ideoj de Karlo”の途中で筆写が了ってしまっている。このほかに筆写したもので“Pasero kun la lango tranĉita”、“Historio de Momotaro”、“Maljunulo, la florodonanto”の3冊がある。何れも2594年(1934—昭和9年)の日付けがついている。—— Antaŭ tre, tre multaj jaroj vivis maljunulo kaj maljunulino. Jam ………。当時おぼんの駆出しだったから、辞書を頼りに苦労しながら勉強したものだろう。

英国で出版されたH. G. WELLS 著(エス訳 E. W. AMOS) “la Tempo-Maŝino”。これは“百万年後の世界”という題名で日本語版が出たことがあると聞いているが、古いものである。題名からして察しがつくが、Tempo-Maŝinoで百万年後の世界へタイムスリップした話で、この中に、人間の形をした侏儒(こびと)のような生物が出てくるのだ

が、今から10年程前に刊行された半村良著“妖星伝”という小説の中にこれと似たような生物が出てくる場面があって驚いたことがある。

3、4年前に北島瞳さんから“Marta”を借りた。全文タイプでコピーした。224ページになり1年半位かかった。これも昔“寡婦マルタ”として日本語訳が刊行されたものだそうだが見ていない。エスペラントの対訳書があった筈だが、これも手に入れられなかった。“Zamenhofa Legolibro”に抜粋が載っているので、たいていの方は読んでいる筈である。

この全訳を試みて手をつけてみたが、如何にも難しい。2ページ目に Adoniso という単語が出てくるのだが、エス和辞典に出ていないので全くわからない。“Historio de Momotaro”のようなわけにはいかない。それにこの物語自体が、私にはあまりに悲惨な感じが強くて、先を想像すると Por mi eksjunulo, kiu staras per unu piedo en la ĉerko, la rakonto estas tro stimulega al la koro. で翻訳は杜絶状態のままである。

筆写もタイプコピーも単語の勉強と literumo を確実に覚えたいという考えからのことである。ちなみに Adoniso とは美の神 Irosol に愛された美少年のことだそうである。

☆Japanaj labeloj 70p.、600円。

「さるかに合戦」「舌切りすずめ」「かち

かち山」「桃太郎」「花咲かじいさん」

☆Karlo 51p.、240円。

☆Marta 213p.、800円。

ご注文はもよりの書店へ。発行所はすべて日本エスペラント学会と指定してください。

資料：瀋陽の熱い波（北畠 瞳 訳）

中国遼寧省の省都瀋陽では、1987年4月から10月まで地元テレビ局の協力で瀋陽エスペラント会の第1回テレビ世界語講習会が行なわれ、6000人以上の参加申込みがあった。職業も教授、教師、学生、科学者、事務員、医療従事者、農民、それに小・中学生とさまざままで、70歳を越えた者から14,5歳までの年齢層の者であった。講習は毎夕45分間行なわれ、6ヵ月後、2100人以上が講習終了後の試験に合格した。合格証書授与式はこのうち約1000人が出席して、1月13日に行なわれ、これには市の指導者、中華全国世界語協会事務局長・張企程氏、EL POPOLA ĈINIO, Radio Pekinoの代表者、さらに新華社通信、China Dailyの記者も出席した。

瀋陽世界語協会は、エスペラントを用いて科学技術・文化交流、さらに相互理解、友好を促進し、瀋陽の改革と開放を推進する目的で1985年7月に創立された。その後、各分野での世界語学習が盛んになり、多くの市民が参加し、現在30000人以上の世界語者がおりこのうち2600人以上が協会員として登録されている。市内10の高校では多くの学生が世界語を選択科目として学んでおり、いくつかの小学校、幼稚園でも世界語が教えられている。

語学水準と会話能力を高めるために、毎年夏には世界語者キャンプが、ザメンホフ祭には各種の講演会が行なわれている。また、公

園や居住区では世界語者たちが会話練習しているのを見受けることができる。

国内の90以上の世界語協会と相互に連携を持ち、また、日本、アメリカ、スウェーデン、オーストラリア、ポーランド、フランスなどのEsp会とも協力関係にある。市旅行局協力のもとに外国の旅行者とも連絡をとることができるので、独自に外国の旅行団を招聘することもでき、これまで各国の世界語者旅行団を受け入れている。

なぜ瀋陽の世界語運動はこのように急速に発展したのか？市の強力な支持と熱心な協力に負うところが大きい。副市長の張氏はRadio Pekinoとのインタビューに次のように答えている。

「世界へ目を向けよう！そのために外国語を学ぼう——と呼びかけている。エスペラントは世界語になる可能性を持っているし世界語になる時がやって来るだろう。それ故支持と協力を惜しまない」と。

中国の世界語者、或いは世界語支持者も同じ思いをエスペラントに対して抱いている。エスペラントによって改革と開放を願うのは瀋陽だけでなく中国全体の願いでもある。

（UEA・ESPERANTO, 1988年4月号から翻訳）

★札幌の姉妹都市・中国シェンヤンのE運動の活況ぶりを、EL POPOLA ĈINIOのペラントの北畠瞳さんに翻訳、紹介してもらいました。（編集部）

La Redakcion Atingis
Eĥo de N-ro 23

Tomakomai, '88,03,31

Tre interesa estas la artikolo de s-ano Kirikae pri la poemo de I.U. Li jam montras talenton de verkisto, mi ŝatas.

Jam estas malmultaj, kiuj konis k-don I.U. Mi estis kvazaŭ lia disĉiplo depost 1949, aŭ amike, aŭ reciproke kritikante---. Mi amas lian tuton, kun talento, saĝo kaj

ankaŭ mankoj.

Miyamoto kaj Kumaki kritikis lian manieron de anarkieco (senreguleco) en organiza agado, kion mi povas konsenti. Li estis homo de ideo, plano, sed ne sistema organizado. Tamen lia ideo kaj versista talento estis tute impona---: mi bedaŭras, ke li ne povis plene florigi sian talenton pro diversaj obstakloj.

Acuŝi Hoŝida

よく使われる 単語・ことば (4)

(引例: 新選和エス, 新選エス和, 日エス, その他)

- * 早いもので sagrapide. 早いものであれから三ヶ月も経った Sagrapide jam pasis tri monatoj de kiam ĝi okazis.
- * あまり ne tro, ne tre, ne tiel multe. あまり多く読んでいない Mi legis ne tre multe esperantan libron ĝis nun.
- * あんまり それはあんまりです Tia estas tro kruela(senkora).
- * かかる bezoni, postuli. 5日かかる bezoni kvin tagojn. 千円かかる kosti mil enojn. 修理に時間がかかる La riparo postulas tempon. 医者にかかる konsulti kuraciston. やっとエンジンがかかった Apenaŭ ekfunkciis la motoro.
- * それなりに それなりにしておく lasi ion kiel(kia) ĝi estas. それなりに努力したつもりだ Mi klopodis, kiom mi povis. それなりにすんでしまった La afero finiĝis siamaniere.
- * ひそひそと mallaŭte, neaŭdeble. ひそひそ話 mallaŭta interparolo. うちあけ話 konfidenca parolo.
- * 聞き流す うっかり聞き流す preteraŭdi(malatente). 忠告を聞き流す ignori admonon.
- * 何気ない 無関心 seninteresa, indiferenta. 気につかない senrimarka, senzorga, senkonscia. 気にかけない senintenca, senkoncerna. 何気なく言った言葉 senzorgaj(senkonsciaj) vortoj.
- * 読み流す senatente tralegi. すらすらと読み流す senhalte(flue) tralegi.
- * さりげない さりげなくふるまう konduiti senafekte, konduiti nature.
- * そこそこ 百円そこそこの品 objekto ĉirkaŭ cent-ena. 食事もそこそこにして出掛ける eliri apenaŭ manĝinte, eliri preskaŭ ne manĝinte.
- * よしんば eĉ se.

(高橋 要一)

SALATO

★「前号でタイプライターを譲ってください、とお願いしたところ、さっそくSES会長の吉原さんが譲ってくださいました。ありがとうございます」（札幌・山岸悦子）

★「伊豆長岡の全国合宿で高知市の片岡忠さんと知り合いました。以前、焼津の合宿で浜田国貞さんと会ったこと、新婚旅行で札幌を訪れたとき、まだ学生だった椿陽考さんが出迎えに来たことなどをうかがいました。お二人によろしくとのことでした。日本大会不在参加の申し込みを受けてきました」（札幌・カワハラ・カズヤ）

★「発足したばかりの札幌E会青年部に横浜E会青年部の井上直生さんから熱い連帯のメッセージがとどいた。部員にはコピーして渡した。関東E大会に参加できるかもしれないが未定」（岩見沢・渡辺晋道）

★「好評だった“★ESPERANTO”トレーナーに続いて今度はTシャツを製作します。日本大会のシンボルマークの“星を抱くキタキツネ”のバッジも検討中です。日本大会までには完成、販売できそうです。北京UK参加印象記のE版の在庫もあります。買ってください」（阿部商会=札幌・阿部映子）

★「Rondo Apriloの小林貴美子先生の息子さんが6月4日に横浜で挙式されました。おめでとうございます」（札幌・Rondo Aprilo一同）

★「土曜日の12時から1時間、ホレンコで会話の会をひらいています。先生は木村さんです。日本大会にむけて会話力を高めたい方は、ぜひ来てください」（札幌・末永章子）

★「砂野裕子さん、阿部映子さん、馬場恵美子さんと山登りでも始めようかと相談している。本格

的登山ではなく、まず低い山から。豊蔵正吾さんが山のベテランなのでリーダーになってもらって山の上でエスペラントを勉強するのも、いいと思う」（札幌・藤平あや子）

★「5月から市民会館の音響係に配転になった。9時閉館で、家にたどりつくのは10時すぎの生活だが、興味のある仕事だ。原稿はちょっと忙しくて書けない」（函館・岩井正久）

* * * *

☆合宿に出発したときは、ほとんど観光気分。でも伊豆を出てから、まったく観光をしていないのに気がついた。当分は大会準備に追われそうですが、Heroldoの仕事もしています。（BE）

☆SES青年部は40歳まで。渡辺晋道さんいわく『仏教会なんか45歳まで青年部』。二児の父のわたしも青年部員です。（KK）

☆前号で伊東三郎の“Mateno en Sapporo”をかつてのHEL機関誌 Leontodo から再録した。20年も前のことだから、今の人たちが彼を知る人は少ない。伊東夫人の宮崎公子さんから『エスペラントも100年を迎え、これから沢山若い人びとに有意義に使ってもらわねばなりません』と手紙もらった。☆今回も発行が遅れた。ワープロ段階での仕事のまずさもあるが、原稿や情報が集まらないことも遅れの一因である。次号は7-8月号、道大会も間近かなので遅れずに発行する。原稿は早め早めに送ってほしい。（JT）

* * * *

☆前号、HEL会計監査・阿部映子さんのお父さんのご葬儀（1月）の際に弔電を送ったグループに札幌のRondo Apriloが抜け落ちていました。おわびして追加します。

☆また悲しいお知らせです。札幌E会の田代茂巳さんが6月8日、二女の瞳さん（10歳）をご病気で亡くされました。おくやみ申し上げます。